

富士川町に伝播する
風雅な通過儀礼

十三参りの ご案内



「十三参り」をご存知ですか？発祥は京都の嵐山にある法輪寺。旧暦の3月13日前後に、数え年13歳の子どもたちが行う祝いごとで、関西では七五三と同じくらい大事な行事とされているそうです。山梨県で十三参りを行っているのは、富士川町の「御堂山 妙性寺」。妙性寺を訪れ、十三参りを行うことの意義や実際にお願いを受けた子どもたちに話をきいてきました。

背すじを伸ばして晴れ着を
生き方のヒントを授かる

十三参りとは、数えて13歳になる男女が「虚空蔵菩薩（こくうざうぼうさつ）」にお参りし、知恵と福徳を授けてもらう伝統の通過儀礼。京都の法輪寺を発祥とし、関西では有名な行事です。しかし、山梨を含む関東地方ではあまり馴染みがないかもしれません。

山梨県で唯一、十三参りを行っているのが富士川町にある妙性寺。先代の住職が始められ、今年で22回目を迎えるといえます。

「4、5人からはじまり、口コミで拡がりました。今では多い時には20名を超す参加者が集まり、近県からいらっしゃる方もチラホラいます。」
話を聞かせてくれたのは住職。お祓いはもろろん、1時間程度の法話で子どもたちに感謝することの大切さや生き方についてのアドバイスもしているそうです。

「子どものままではいけない」
大人になることの実感を与える

十三参りに参加した子どもたちは「すっかりしなやかと思った」「もう大人になっていくんだと思った」と、「大人」を実感できたことを口々に話します。相沢実来さん、相沢峻馬くんは「みんな



「奉納の儀」で筆で書いた一文字は大切に保管されています

の前で習字をするのが緊張した「静かな儀式だったので、緊張した」と、味わった栗田氣を「緊張という言葉で表現。渡辺さくらさんは「久しぶりに着物を着て、すっかりしなやかと思った」と教えてくれました。

心もからだも大人と子どもの境目のような13歳という年齢。そうした大切な時期に大人として生きて行くための知恵を授けることが十三参りの目的です。儀式では「奉書の儀」という習字が行われ、子どもたちは色紙に「正」の一文字を筆で書きます。

「正しい大人になることを祈願するための『正』です。この奉書の儀をきっかけに、今からこうして生きていきたいということや、こうなりたいという指針を持つてもらいたいと思います。目標を立て方や周囲に感謝をすることの大切さなど、子どもたちに聞かせていますよ。」

儀式には、詳細な内容を知らずに参加する子がほとんど。甲府市から参加した今村紗妃さんは「内容を知らずに参加をしたけれど、聞いているうちにわかってきた。お話がとても興味深かった」と感想を聞かせてくれました。

十三参りでお参りする「虚空蔵菩薩」は、知恵と福徳を司る菩薩様。お参りすることを「知恵参り」「知恵もらい」とも言います。十三参りは、大人になるための知恵、生きて行くための知恵を授かる儀式なのでしょう。



今年の十三参りは...
4月9日(日) 妙性寺
富士川町最勝寺1626-1
0556-22-2351

お着物を着て
大人の仲間入り



振り向いてはいけない
前向きな若き力を、未来へ

十三参りには大事な決まり事があります。それは、お参りが終わってからの帰りに道に行われる「歩の儀（ほのぎ）」。

授かった知恵を置いてこないように法界まで後ろを振り向いてはいけないということです。

晴れ着を纏った子どもたちが緊張した面持ちで、一心不乱に前を向いて歩いて行く姿に成長を感じない親はいないはず。日本に根付く伝統の通過儀礼の美しさを感じる事ができる一幕でしょう。

「人生生きて行く上で、誰ももいるいるありますから。大人の仲間入りを意識して、成長のきっかけにしてもらいたいですね。それと行事を経験することで伝え手になってもらうことも大切。さらに、伝統の通過儀礼を体感することは、情操育成にも欠かせないと思います。最初は意味がわからなくても次第に理解し、血が通って自分の中でカタチになる。通過儀礼は、物事の本質を考える機会としても大切だと思います。」

十三参りから1年...



今もこうやってつながっています。



十三参りを支える町の人たちと。

